

セイブ コミュニティスクール だより No. 4

◆学校・家庭・地域総がかりで生徒を育てるしくみづくり

2025. 3. 7
鹿島西部中学校運営協議会

第3回学校運営協議会 令和7年2月10日

西部中学校令和6年度学校評価について「熟議」と「評価」を行いました。

学力の向上について

B



授業を工夫し、生徒も積極的に取り組んでいるが

★家庭学習をほとんどしない生徒 39.6%

★家庭学習を2時間以上している生徒 21.1%

となった。家庭学習への取組について、家庭との連携や啓発が必要である。親としても勉強はさせたいが、させ方がわからない面もある。

「学校に行きたい」という気持ちになるために、「授業が楽しい」「授業がわかる」という気持ちが必要。次年度は学力向上の項目も見直したい。

心の教育について

A



生徒達は、「自分は認められている、思いやりを持っている、褒めてくれる」等の項目は、87.1%が肯定的にとらえている。夢実現については、自分の将来を考えたり、夢を見つける努力をしているため、自己肯定感が高まっている。

この結果を踏まえて「絶対的安心感」が醸成され、意識的に居心地のいい学校を目指していると理解している。「学校が楽しい」「学校に行きたい」という生徒が増えていることは、心の教育の意識が高まっている証拠ではないだろうか。

健康・体力づくりについて

A



「朝食をきちんととっている」生徒は93.4%となっている。朝食の内容については、栄養面での課題は残っている。安全面では「マナーやルールを守っている」生徒は98.4%となっている。一方、地域からの指導や苦情も多くあるため、交通指導教室等で、正しい判断を出来るよう指導していく必要がある。

西部中校区は、令和7年度佐賀県の「交通安全指導校区」となっている。これを機にさらに意識を高めていきたい。

業務改善・働き方改革の推進

A

勤務時間を意識して、業務を行ったと肯定的な回答が83.8%であり、時間外在校時間の平均も昨年より、10時間減少している。しかし、それでも遅くまで仕事をしている職員もいるため、保護者の皆様にも学校の勤務時間について理解していただきたい面もある。（他の事業所のように）

今後の保護者の皆様の協力もお願いしたい。

特別支援教育の充実

A

研修での学びを実践している教員が多く、生徒も「自分にはよいところがある」と感じている生徒が77.2%と多くなっていることと関連していると感じる。全ての生徒が良好な人間関係を構築できるように、スキルトレーニングを行う教員も多く、研修の成果が目に見えているようだ。

不登校生徒の対応

A



西部中の最重要課題であった。「学校を楽しく過ごす事ができている」と回答した生徒が87.7%と多くいる。また、半数以上が学校の悩みを先生に話していると回答している。これについては、職員が「子ども達の声をよく聴くようにした」等の取組が実り、成果を上げているところだと感じる。不登校の生徒も、昨年度よりも増えていない。

地域連携

B



地域人材を活用した取組みは、講演会や福祉等の体験活動など各学年数回実施した。（囲碁教室や赤ちゃん登校など）

生徒達は、「ふるさと鹿島が好き」84.9%「西部中が好き」75.0%と肯定的な回答をしている。3年生は、鹿島学で「鹿島の未来」について勉強している。

こういった取組を更に行い、「ふるさとを愛する心」を育むようお願いしたい。



令和6年度は「学校運営協議会」で委員の皆様から沢山のご意見をいただき学校運営に生かす事が出来ました。この評価を受けて次年度よりよい西部中になるよう努力してまいります。

文責：田崎